

2025年度法科大学院入試（B日程）【一般論文試験問題】

出題趣旨・採点基準

<出題趣旨>

本問記事は、日本社会において現在進展中の特定の外国人の集団の社会的包摂の問題、当該集団に対する差別の問題、およびこれら問題にまつわる SNS の功罪の問題を題材にしている。川口等におけるクルド人コミュニティについては、言語や文化の相違、日本における難民申請者の不十分な権利保障の問題等から生じる地域住民との間の問題が注目されることがあるが、こうした問題に関する SNS 上の言説がもたらすヘイトが一部で醸成され、問題を複雑にしている。このような問題については、限定的な視野に基づく不正確な理解や一部の主観的な意見に影響を受けて個々人の主張が形成されヘイトが増幅・伝播される傾向があるが、本問では、受験者がさまざまな言説や情報を客観的かつ総合的に整理・理解し、論理的に考察できるかを問う。

<採点基準>

設問 1（30 点）

記事から以下の諸点を読み取っている：

- ・クルド人は世界の各国では少数派で、差別や弾圧を受けてきたこと
- ・トルコ政府は日本クルド文化協会と幹部ら 6 人を「PKK 関係者」つまりテロリストと認定しているが、日本政府はしていないこと
- ・日本の難民認定のハードルの高さが原因で、在日クルド人には「仮放免」の人が多いこと
- ・クルド人に対するヘイトが高まっていること
- ・一部のクルド人が騒動を起こしたのは確かであること
- ・クルド人に対するヘイトが SNS を通じて無関係な他の地域の人に広がっていること

設問 2（30 点）

設問 1 でまとめた問題の解決策を、多角的な視野から客観的・論理的に考察しているか。とくに、少数者（外国人、とくに脆弱な立場に置かれている難民申請者）の人権・社会的包摂と地域住民・他地域住民との関係について、一方的な視点ではなく、双方の視点からバランスの取れた考察ができているか。また、SNS や新聞記事における情報の真偽の問題についても意識しているか。

※その他：

- ・議論の流れの一貫性や主張の明確さが際立つ答案に、最大プラス 40 点
- ・字数が極端に少ない答案は大幅減点。誤字脱字は著しい場合のみ最大マイナス 20 点